

【義務教育終了時に目指す姿】

「自分が好き」と言える子ども

【教育理念】

聴き合って未来を拓く学校づくり

目指す学校像：授業を根幹とする学校

目指す教師像：目の前の児童生徒を丸ごと受け入れ、共に学ぶ教師

【八坂小中学校 義務教育9年間のねらい】

「聴き合って未来を拓く学校づくり」と「協働の学び」の授業実践を通して、「他者と結び合う力」「対象をとらえ直す力」を養い、『自分が好き』と言える子どもを育成する。

【学校教育目標】

「問い」をもって学ぶ八坂の子

【教育課題】

協働の学びの質を高める

【重点1】 学びづくり

「問い」を開発し、質を高めることを通じて、児童・生徒の対話を活性化させる。

【重点2】 関係づくり

考えを聴き合うことを通じて、多様性や個性を認め合える関係を構築する。

【教育システム】

○義務教育9年間学習システム

全ての教科領域で9年間を見通したカリキュラムを作成する。
教科担任制や複数担任制を導入する。

○地域協働システム ～「学び合いの里 八坂」と共に歩む～

学校運営協議会との協働により「地域に開かれた教育課程」を編成し、地域の宝である子どもたちを共に育てる。

○教職員研修システム

前期・後期課程の教職員が授業を相互に参観しあう。
村瀬先生の授業クリニックや教科等に関する専門的な研修を通して、授業力の向上を図る。

Ⅱ-1-(1) 義務教育9年間のねらい

一貫教育のねらいを次のように設定しています。ここでは、学校と児童生徒、そして保護者、地域の方が義務教育学校としての教育理念と教育目標を共有し、協働することで養われる児童生徒の姿を表しました。

【八坂小中学校 義務教育9年間のねらい】

「聴き合って未来を拓く学校づくり」と「協働の学び」の授業実践を通して、「他者と結び合う力」「対象をとらえ直す力」を養い、「『自分が好き』と言える子ども」を育成する。

本校では、「聴き合って未来を拓く学校づくり」という理念を掲げています。これは、子どもたちが他者と協力し合い、コミュニケーションを取る力を育むことを目指しています。

そのために、対話や議論を通して、多様な人々と一緒に考え、協力する力を養っていきます。また、いろいろな視点から物事を考え直す力も大切にしています。例えば、授業の中で新しい考え方を見つけたり、知識をつなげたりすることで、子どもたちの考え方が深まります。

このような教育を通じて、最終的には「自分が好きと言える子ども」を育てたいと考えています。それには、自己有用感（自分は価値のある存在だと感じる）を高める必要があります。自己有用感、他の人と関わりながら高められます。例えば、他者に喜んでもらったり、誰かの役に立ったと感じたりすることで、自分に自信が持てるようになります。



そのために、協力して学び合う授業や、答えのない問いを一緒に探究する学習の時間、特別活動などを大切にしています。これらを通じて、「自分は価値のある存在だ」「自分の行動が認められている」と感じることができるようになります。

最終的には、子どもたちが「自分が好き」と感じられるようになることが目標です。そして、そのために必要な力として、次の2つの能力を重視しています。

【自分が好きといえる子どもを育てるために、本校が大切にする2つの資質能力】

他者と結び合う力

対話や議論を通して、多様な相手の考えを理解したり、自分の考えを広げたりして、様々な人と協働していくことができること

対象をとらえ直す力

各教科で培った見方・考え方から、対象を対話によって見出した新たな視点でとらえなおし、知識技能と関連づけながら再構成し、対象への見方・考え方を更新すること

次にこの教育の中で、子どもたちがどのように自己有用感を高めていったのかを、具体的な事例を通して振り返り、どのように評価していくかを考えます。